

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成



III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築



IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立盲学校 】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	京都市立旭丘中学校生徒会役員 12 名 本校中学部・高等部普通科球技部部員等 4 名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 (課外活動)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目 標 (ねらい)	参加者が視覚に障害のある生徒と視覚障害者スポーツを通して交流することで、視覚障害について理解を深め、共にスポーツを楽しむ。
5 取組内容	<p>(1) 令和元年 11 月 22 日 (金)</p> <p>京都市立旭丘中学校生徒への視覚障害理解教育とフロアバレーボールのルール理解と実技指導</p> <p>① 視覚障害について</p> <p>ア 説明(見えない、見えにくいについて)</p> <p>イ アイシェード(アイマスク)を付けての体験(アイシェードをつけて歩行)</p> <p>②フロアバレーボールの実技指導</p> <p>ア パス、レシーブ、ルール説明</p> <p>イ ゲーム体験(2チームに分かれて)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(2) 令和元年 11 月 28 日 (木)</p> <p>京都市立旭丘中学校生徒とフロアバレーボールを通して本校生徒との交流</p>

	<p>① 合同でパス練習等</p> <p>② ゲーム（混合チームで対戦、旭丘中学校チームと盲学校チームで対戦）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
6主な成果	<p>(1) アイシェード（アイマスク）をつけて歩いたり、手引きをしたりしたときに、「あっち行きます」「もうすぐつきます」などではなく、「右に曲がります」「あと何歩でつきます」など、具体的に手引き者が伝えることで「わかりやすい」「恐怖心がなくなった」など体験をとおして気づくことができた。</p> <p>(2) 「アイシェード（アイマスク）を付けて見えない状態でボールを受ける時に、ボールがどこから来るのかよくわからなくて、ボールを受け止めることがとても難しく大変なことだということがわかった」という感想もあり、見えない状態の理解を深めるものになった。</p> <p>(3) 本校生徒の交流は1回だけであったが、フロアバレーボールのゲームを通して、「もっとうまくなりたい」「また機会があったら試合をしたい」等の声がたくさんあり、視覚障害者スポーツの楽しさや理解につながった。また、混合チームを作ったことで、盲学校生徒との交流も深めることができた。</p>
7実践において工夫した点（事業の特色）	<p>(1) アイシェード（アイマスク）を付けて、歩行したり、手引きをしたりして支援する側、支援を受ける側それぞれの体験をとおして、見えない状態の理解を深めやすくしたり、支援する側の支援の仕方を考えたりする場面を作った。</p> <p>(2) 1回目にフロアバレーボールの基本的な動きやルール、2回目に本校生徒との練習やゲームに取り組み、フロアバレーボールでの交流をしやすいようにした。</p>
8主な課題等	<p>(1) 今後さらにこのような取組を継続させ、視覚障害者の理解やスポーツを通しての共生社会を推し進めていきたい。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>(1) 来年度も今年度同様、晴眼者も視覚障害者も一緒に楽しめるフロアバレーボールをとおして、近隣中学校との交流を深めていく予定。</p>